



ていね 四季の森通信



2010年 6月5日 手稲さと川探検隊

今日見ることができる(かも?)植物達



名まえ:延齢草《エンレイソウ》
アイヌ語名《エマウリ》

北海道に生育するものはエンレイソウ、ミヤマエンレイソウ(シロバナエンレイソウ)オオバナノエンレイソウなど約7種類。

アイヌ語のエマウリがエンレイソウと変化したとの説もあります。

アイヌでは根を回虫駆除のため煎じて飲んだと言い伝えがあります。

白い花の咲くオオバナノエンレイソウは北大の校章のモチーフになっていますが



名まえ:《一人静》ヒトリシズカ
アイヌ語名:《イネハム》

「静御膳」に例えて名付けられ、たしかにしとやかな美しさを感じます。

「一人」は花穂がひとつであることに由来し

「フタリシズカ」もある。これは女子が集っているみたいに少し華やかに感じます。

アイヌでは干してお茶にしました。独特の匂いは病魔を近づけない除魔力を持つと信じられていました。



ほくはアイヌ語で
キノモコリリ
(幌別方言)



草の茎のてっぺんにのぼってペロペロキャンディみたい!

- 引用・参考文献 : 福岡イト子 「アイヌ植物誌」1995年発行
 : 北海道林業改良普及協会「おもしろい草花の話」1998年発行
 助言 : 安田千夏氏 (ウトナイ湖サンクチュアリネイチャーセンター)



オオバナノエンレイソウ

文責: 後藤菜摘子